

万寿東幼

万寿東小学校との交流(スムーズな小学校への接続のために)

本園は、小学校に隣接し交流を図りやすく、小学校との交流を図るための園行事を取り入れています。例えば、「校長先生による読み聞かせ」、「万寿東小祭り」等の行事への参加、1年生や5年生等の児童との「交流会」を実施しています。遊びを中心とした幼児期の教育と教科等の学習を中心とする小学校教育では、教育内容や指導方法が異なっているものの、幼稚園から義務教育段階へと子どもの発達や学びは連続しており、小学校との交流の行事を取り入れることは、幼児期の教育と小学校教育とのスムーズな接続を図る上で有意義であると思います。



万寿小

本校では、「万寿のきょうだい」という合言葉をもとに、異学年同士でペアになって活動する「きょうだい活動」を実施しています。「きょうだい活動」の中の一つ「きょうだい遊び」は、1・6年生、2・4年生、3・5年生がペアになり、年に3回ほど公園や校庭で一緒に遊びます。上級生は、事前に下級生も行える遊びを考えたり、準備したりします。当日は、見本を見せながら遊んだり、困っている児童がいると手助けしたりする姿も見られます。学年の枠を超えて人間関係を築くことで、異学年との関わり方を学び、自分の役割を果たすことを頑張っています。



万寿東小

本校では異学年を縦割り班にした「なかま班活動」を実施しています。なかま班の主な活動は、日々の掃除やなかま班遊びで、これらの活動は6年生がリーダーとなって取り組んでいます。今年度は、実施した遊びの感想を下級生に聞いて、計画や準備、本番の活動の振り返りを行い、より良い活動にしようと頑張っています。また、なかま班では、1・6年、2・4年、3・5年でペアを組み、活動中は上級生が下級生のお手本となり、アドバイスや手助けなどを行っています。この活動を通して、学年の枠を超えて人間関係を築いたり、進んで自分の役割を果たしたりする姿がたくさん見られます。



東中

令和6年4月11日(木)は、グレーのスーツタイプの新制服での入学式となりました。

近年の教育現場では、防寒・防犯・機能面の充実など「安心・安全」の観点や多様な個性をもった子どもたちへのきめ細やかな対応が求められています。そういった社会的背景を踏まえて、制服選択制を導入しました。令和3年に取ったアンケートの結果をもとに、制服検討委員会で検討を重ね、男女区別のない新しい制服のあり方、機能性・耐久性等を考慮し、東中の特色を取り入れた制服が出来上がりました。

12月4日(水)のPTA人権教育講演会は、RSK ラジオパーソナリティ・濱家輝雄氏の講演です。



東中学校の新しい制服

人権だより

第48号

あおぞら



であい・ふれあい・えがおの集い!

令和6年2月18日(日)第11回「であい・ふれあい・えがおの集い」を開催いたしました。

倉敷市立東中学校音楽部(アンサンブル演奏)、オカリナを楽しむ会ひまわり(オカリナ演奏)、倉敷コール・クライネ(コーラス)、中学生人権作文発表と素敵な時間が流れました。4年ぶりに制限のない開催となり、天候にも恵まれ、多くの方にご来館いただきありがとうございました。



同時開催で令和6年2月14日(水)~2月24日(土)の期間、倉敷東幼稚園、万寿幼稚園、万寿東幼稚園、大内保育園万寿分園の年長組の皆さんによるマスコットキャラクター「てるちゃん」のぬり絵展を実施しました。



次のページには、当日発表していただいた中学生2名の人権作文を掲載しています。

人権作文の紹介

周りも気にして

倉敷市立東中学校 一年（当時） 高田 ゆずゆ

岡山地方法務局倉敷支局・倉敷人権擁護委員協議会主催

第42回全国中学生人権作文コンテスト倉敷地区大会入賞 作品



私は、最近「バカ」や「死ね」などの言葉をよく耳にします。また、ニュースでもいじめが原因で亡くなった子がいるということを目にすることが増えてきました。

私も実際に、いじめられたことがあります。その時までには、「いじめ？そんなの本当にあるのかな？」と思っていましたが、最初に無視されはじめたとき、すごく辛かったです。でも、誰にも言えなくて、ただ辛いだけでした。そんな時、学校でSOSミニレターが配られました。そこには、子どもの人権——〇番の電話番号が書いてありました。一度だけ、「電話をかけてみようかな。」とも思いましたが、それと同時に、「知らない人に電話で相談するよりも家族に話した方がいいんじゃないかな。」という気持ちもありました。でも、早くいじめはなくなってほしかったので、電話をかけようとした時に一階から、母の元気な「ただいま」という声が聞こえてきました。でも、電話をかけようとふるえている手はとまりません。少し悩んだけど、電話をかけるのはやめることにしました。知らない人に聞かせても、その人は私の親でもないし、第三者の意見を聞いて、自分は本当に実行できるのか、分からなかったからです。だから私は、お母さんに相談することにしました。

その日の夜、母の部屋にいくと、お母さんは明るい顔で私を部屋に入れてくれました。「ごめんね、急に部屋に来て」私がそう言うと母は、「全然いいけど、何でそんな落ちこんどん？」と言ってくれました。それから私は、今まであったことを全て母に話しました。学校で友達に無視されていること、悪口を聞こえるくらい大きな声で言われること、そうじを一人でやらされたり、素手でさせられたりすること、母は何も言わずに、ずっと聞いてくれていました。話し終わったとき、母は私を優しく抱きしめてくれました。とても温かい母の体温が伝わってきました。すごく弱くて泣き虫な私に、「大丈夫。何があってもママはねえちゃんの味方やけえ

ね」と言ってくれました。すごく安心して、涙があふれてきました。心でぐちゃぐちゃになって重たかった何かが、ふわっと軽くなりました。

後から何で急な話だったんだろうと気になりました。話を聞いていると、私が最近少ししんどかったことに母は気付いていたそうです。母は、自分のことだけでなく、私のことも気にしてくれていたそうです。母にはそっけなく「ふうん。そっか。」と返してしまいましたが、正直すごくうれしかったです。

その次の日から、私は母のように私だけではなく、周りの人のことも気にしてみようと思いました。でも、周りを見ると自分のことができなくなってしまって、変なところで空回りしてしまいました。だから私は母に、どうしたら周りも見ながら生きていけるのかを聞いてみました。すると母は大声をあげて笑いだしました。私は大事な話をしているのに何で笑うのと思うところもありましたが、母の考えることも少しだけ分かったような気がしました。きっと母は、無理しなくてもいいのに、できるところだけでいいんだよ、ということが伝えたかったんだと思います。それに気付いたから、自分でもどこかおかしく思えて母と二人で笑いしました。

私は、これまでの経験で、自分のことだけを考えると周りが見えなくなっていたなと思う時が多くあります。確かに、自分を守るために、自分のことを考えるのも大切だけど、時には周りも気にして生活することが大切だとこれまでをふりかえって気付きました。

最近はネットでのいじめや、いんしつないじめが起きているというニュースを見かけることが多々あります。それで亡くなる方が居るというのも事実です。だからこそ、周りも気にして、お互いを大切に生きることが大切だと思えます。

いじめについて

倉敷市立東中学校 二年（当時） 鳥路 紗都



みなさんは、「いじめ」についてどう思いますか。「いじめ」というのは学校生活の中でとても身近に起こっているのではないかと思います。だから、誰かがいじめられているのを目撃した人や、もしかするといじめてしまったという人もいるかもしれません。ではなぜこのようなことが起こってしまうのでしょうか。

昔はよく、新聞やテレビで「いじめ」について耳にしました。ですが、最近はあまり耳にしません。だから、「いじめ」について考えることは徐々に減ってきていると私は感じます。いじめというのは、見た目が気に入らないといった偏見やちょっとしたすれ違いなどで起こります。そんなちょっとしたことがきっかけで、仲間はずれにされる、悪口を言われる、叩かれる、わざとぶつかられるといったひどいことをされることもあります。私も実際に、裏で悪口を言っているのを聞いたことがあります。小学生の頃、同じクラスだった女の子が、何人かの人にコンコンと悪口を言われていました。その悪口は、日が経つにつれ本人に聞こえるような大きな声になっていきました。あのときの私は、女の子はどんな気持ちで過ごしていたのだろうか、とてもつらいんだろうと思うばかりで、「助ける」ということはできませんでした。なぜなら、「その女の子と同じようににいじめられるかもしれない。」また、「どうせ助けたって仕方がないし、意味なんてないのではないか。」と見て見ぬふりをしよう、と思った自分もいたからです。正直、私はこの気持ちの方が大きかったので、「助けることができなかった。」ではなく「助けなかった。」のかもしれませんが、今思うと、もっと勇

気を出して注意すれば良かったし、注意ができなくても先生に伝えるなどができればよかったのではないかと後悔しています。

また、中学生になるとスマホを手にする人が多くなりました。今の時代、SNSやインターネットの書き込みが問題となっているニュースを見ます。中学生はそんなことはしないと思っている人が多いと思いますが、実際に中学生で多いのは、文章でやりとりをするラインを使ったいじめやトラブルです。ラインでは、自分が思っていた意味とは違う意味で相手がとらえてしまうことがあります。この文章を読んだ相手はどう思うか、相手の立場に立って考えるようにすると相手を傷つけることが減るのではないかと思います。

「いじめ」や人を傷つけるといったことは、ゼロにはできません。むしろ、これから増えていくかもしれません。身近なところでも暴言をはいている人をよく見かけます。それは私の周囲に限ったことではありません。私やみなさんが知らないところでも、「いじめ」は起こってしまいます。

だからこそ、少しでも減るように、一つひとつの言葉を大切にしていけないといけなし、考えて使うべきだと思います。

改めて、みなさんは「いじめ」についてどう思い、考えますか。これからの未来をもっと楽しいものになるよう、日頃の意識を高めていきましょう。

令和6年6月4日（火） 31名の推進委員の皆様に参加いただき、令和6年度東中学校区人権学習推進委員会総会を開催いたしました。今年度も多くの行事が行われる予定です。ご参加とご協力をお願いいたします。

本年度テーマ 「声をかけ、支えあう、人が大切にされる町づくり」

今年度重点課題 「であい・ふれあいを大切にする、心の通ったまちづくり」



マスコットキャラクター
てるちゃん



声をかけ、支えあう、
人が大切にされる町づくり